

第2回町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2019年2月13日(水) 14時00分～16時30分

○場 所 市庁舎9階 会議室9-3

○出席者 出席委員： 西田司委員長、高橋清人副委員長、川原晋委員、和田圭司委員、
西村靖生委員、伊藤博之委員、鈴木悟委員、間仁田修委員
王莉莉委員

傍聴者： なし

事務局： 経済観光部長
観光まちづくり課長
他事務局5名

<開会>

<1 経済観光部長挨拶>

<2 委員自己紹介>

<3 観光まちづくり推進委員会について>

事務局から

- ・町田市観光まちづくり推進委員会の概要等を説明。

< 4 議事 >

事務局から

(1) 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

- ・リーディングプロジェクトの進捗状況について、事務局から説明。

【委員からの主な意見】

- ・桜による観光まちづくり事業を重視する理由は。

→町田市には、1992年に財団法人「日本花の会」と共催でさくらシンポジウムを開催しました。同シンポジウムには約800名の市民が参加し、「みどりと花による街づくり」について、市民と行政が協働して推進することが提言されている。これに合わせ、町田さくらまつりが行われることとなった。

現在、町田さくらまつりは、毎年約10万人を超える町田市を代表するイベントとして定着しており、地域の人々に愛されるイベントとなっている。桜は「まちづくり」と「市民交流」を進める上で欠かせない存在と考えている。(事務局)

- ・イベントは開催に向けての準備と終わった後のレガシーをしっかりと計画することが重要である。また、桜つながりで他地域の同種イベントとの連携を通じ、よりイベントを活性化させていくことも重要である。(複数地域で行う「桜サミット」など)
- ・イベント開催が目的とならないよう、桜を通じた観光まちづくりを意識し事業を進めるべき。
- ・桜は時期が短いため、四季を通して桜を有効活用していく取り組みが必要である。例えば、冬の時期にライトアップし桜の花のイメージを演出したり、プロジェクションマッピングなども活用している事例もある。
- ・駅前や市の中心部だけの賑わいではなく、住宅地を含め、町田市全体としての賑わいを創出する意味からも、町田さくらまつりはとても有効的である。
- ・町田の利便性の良さは、長所である。
- ・新しい観光魅力の発見と、町田ならではの観光を考えることが重要である。
- ・桜、緑・紅葉、また、花と桜だけではなく、一年を通し、町田市の独自性である「自然」を楽しめるようにするとよい。
- ・小野路宿里山交流館は、現在の町田市の観光まちづくり上の成功事例である。
- ・町田の観光に対する思いや理念が集約されている場所が他地域にもあるとよい。また、地域の観光まちづくりに対する強い思いを持っている人材同士の交流を促していくのも町田市が行うべき取り組みである。人が紐づいた観光資源があれば、それを大事にしてほしい。
- ・周辺の地域に比べると、ナイトライフは、町田の強みのひとつである。
- ・行政の中に観光に関する相談のワンストップ窓口の設置が必要である。
- ・相撲の巡業などスポーツ大会を誘致することでマチナカは活発になる。(特に飲食店)
- ・観光まちづくりの理念に基づき、地域全体で大会を盛り上げるようにしていくべき。
- ・今後、ラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、町田は決まっていると聞いた。これを大きなチャンスと捉え、町田市内での消費を促す必要がある。
- ・イベントの大小にかかわらず、観光は地域経済への影響が大きい

- ・町田市は小規模の個人経営の方々を中心に外国人のおもてなしができるよう、接客に役立つ3つのツールを作成し好評いただいている。
- ・町田国際交流財団では、2019年に町田おもてなし観光講座を開く予定である。また、多言語で対応できるようなおもてなしプロジェクトチームを作り、町田市に滞在している外国人を積極的に活用していきたいと考えている。

(2) 町田市観光客数等実態調査について

- ・町田市観光客数等実態調査の速報について、事務局から説明。

【委員からの主な意見】

- ・町田市の宿泊者は、ビジネス目的が多い。
- ・市内のホテルの外国人宿泊者は、概ね外国人が2～3割である。
- ・市内のホテルの実態として、宿泊目的は、「観光目的」が減り、「ビジネス目的」が増えている。外国人宿泊者は、アジアよりは欧米からの来訪者が多く、団体旅行の宿泊者は、アジア系が多い。
- ・温泉目的は箱根に行く旅行者である。
- ・実際は旅行会社よりはインターネットからの予約が多い
- ・ビジネス目的と観光目的は、滞在の目的や過ごし方等が異なるため、調査票の内容を変えたほうがよい。
- ・経年比較ができるよう、定期的に観光客数調査を実施していく必要がある。
- ・宿泊施設及び観光地では様々な調査を実施している。それらの情報を集約することで、より効果的な分析ができる。
- ・調査地点毎に、観光客の傾向を分析できるとよい。
- ・調査結果を、地域へフィードバックする必要がある。
- ・市民向けの観光と市外からの来訪者向けは来訪傾向が異なるため、対象ごとに戦略的に事業を行うべきである。
- ・町田市内の宿泊施設の稼働率は高いため、宿泊者を如何にマチナカに誘客するかが重要である。今後、夜間市場の活性化である「ナイトライフエコノミー」を観光施策として取り組むことも考えられるのではないか。

(3) 観光まちづくり基本方針に係る目標の設定について

- ・数値目標案について、事務局から説明。

【委員からの主な意見】

- ・現時点で2018年度の延べ宿泊者数は目標値をすでに達成していると思われるが、オリンピック後の2021年以降、宿泊者数は減っていくと予想される。目標値をどう維持していくかが重要である。

- ・日本の人口減少に伴い、今後、町田市も人口減少の時期を迎える時代が来ることも想定される。市民、来訪者（観光客）のバランスをどう捉え、どこを目指して、観光事業に取り組むべきか考えなければならない。
- ・目標は外からの来訪者に係る指標である。市民の観光に関する満足度もひとつの指標として考える必要がある。
- ・達成目標の検討に当たっては、2021年までの計画だけではなく、長期的な視点も必要である。

以 上